

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	無邪氣
Author(s)	朋田, 泰典
Citation	龍南, 240: 45-46
Issue date	1938-03-04
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7469
Right	

無邪氣

文三 甲三 朋 田 泰 典

あの子は餘りに従順しい
氣紛れの風に吹かれてゐる
可憐な花の一輪を
いづくしみの心で庇ひもしない
不躰な要求に躊躇もなく
眞紅に咲いた花を捧げた
(あゝその色さへも見分けないで)
私はその花を抱いて泣いてゐる
若い日の逆上に鞭打ちながら
……………でも私は知つてゐる
世慣れぬものが世慣れたものに
わけもなく買はれていくのを
只呪はしいのはそれなんだ
ほんきに私はごうしよう
永劫の愛に歎くさいふ魂を
青い海底に沈めたなら

深海魚が来て食ふだらう

私は今度は他の鞭を

こつそり揚げて泣いてゐる

何が残る？

空気を嗅ぎ廻る偽瞞ホトの行跡には時ならぬ嵐が荒び

古色蒼然たる瓶の腐敗した水は毒氣ある息を吐き

神が自らの湖に浮ぶ舟で夢を紛失するとき

享樂と糧の爲の亂騒の戦慄の青白さ

そこ愛想よき善さもは刻々の區別けいべつに戸惑ひ

軸廻の足の偉大なる使分けに驚愕し

身許不明の渾沌を自矢の酒を酌む

純粹なる情熱への代償は

も早悪辣なる痛罵である

昨日の智は今日その無一文に哀哭す

チエツ絢爛たる財布の中の淺間しき殘滓よ

汝は古新聞紙を購ふの價値もない

だが待てよ武器のない争闘はまだあるだらう